

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

プログラム名	女性の再チャレンジ支援プログラム		
事業名	育児女性の職場復帰・IT訓練カリキュラム開発		
法人名	学校法人 浦山学園		
学校名	富山情報ビジネス専門学校		
代表者	理事長 浦山 哲郎	担当者 連絡先	清水 大樹 TEL 0766-55-1420

1. 事業の概要

女性の再就職支援というテーマでは、特に育児中もしくは育児後の女性に対する就職支援が必須となる。育児を期に、職場を離れた女性が、再就職するには、女性の抱える様々な環境を考慮し、経済的、時間的な支援体制の確立等が必要と予想される。また、再就職後も、女性が育児と仕事を両立するためには、就職後の継続的支援も重要である。

当事業は、育児等により一時的に離職した女性を対象とした、再就職に有利なITスキルのレベルアップカリキュラムを研究開発することを目的とし、最終的には、育児女性の再就職支援から、長く社会で貢献できる人材の育成という視点にて、カリキュラムを活用できるよう、今回の事業での取り組みを活用するものとする。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

■目的

当事業は、育児等により一時的に離職した女性を対象とした、再就職に有利なITスキルのレベルアップカリキュラムを研究開発することを目的としている。

■重点項目

- (1)受講者選考について、より効率的な講座受講体制とするため、受講者選考段階において、選考基準を設け、受講希望者を選定した。
- (2)講座運営について、育児女性の観点に立ち、カリキュラムに関する詳細なシラバス、学習計画書を作成した。

■目的の達成状況

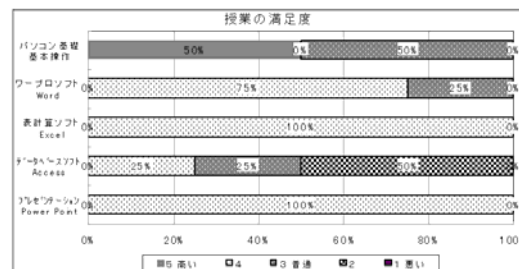
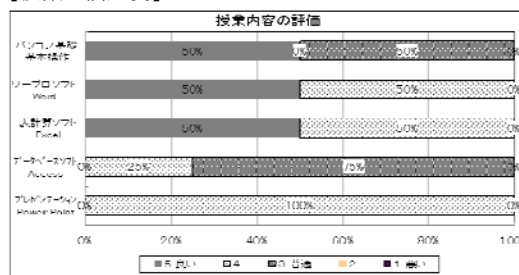
育児女性の再就職に必要なITスキル、オフィス系、Webツールの活用法、再就職の内容については、カリキュラムに反映されており、受講生の成績及びアンケートにより、各スキルの学習理解と満足度を測定した。結果としては、どちらも非常に高いレベルであったと言え、学習理解度及び講座についての満足度は高かったと判断できる。結果として、高い成績レベルを維持できたことから、カリキュラムに問題は無かったと判断できる。

【成績表】

科目名		氏名	A	B	C	D
学 科	パソコン基礎	チェックテスト	94	100	91	92
	ワープロソフト	チェックテスト	88	95	95	84
	表計算ソフト	チェックテスト	98	92	95	95
	データベースソフト	チェックテスト	98	94	98	91
	プレゼンテーション	チェックテスト	88	88	88	87
実 技	キャリアガイダンス	チェックテスト	87	100	83	83
	パソコン基本操作	チェックテスト	80	85	75	80
	ワープロ・表計算活用	チェックテスト	94	94	95	80
	データベース活用	チェックテスト	98	94	98	84
	プレゼンテーション	チェックテスト	88	85	83	78
			92	93.8	88.9	84.4

※特に、基本的なパソコンスキルであるワープロや表計算には、非常に満足度が高かった。対して、データベースやプレゼンテーションについては、あまり満足度が高くなく、これは、過去に操作したことがあるかどうかが大きき原因となっていると考えられる。

【授業の満足度】



②事業により得られた成果

■育児女性の生活環境の把握

講座の出席状況より、生活は子供中心に動いていることが読み取れる。家族のフォローもある程度はあるが、やはり母親の存在が一番大きいと言える。育児女性は、こうした学習時においても専念することが難しく、再就職に向けての環境整備が大切と言える。

■出席状況

出席率	人数
100%	0名
95～100%未満	1名
90～95%未満	0名
90%未満	3名
合計	4名

■欠席状況の分析

欠席時間数(受講者全員の累計、遅刻・早退を含む):161時間

理由	時間数(時間)	割合(%)
(1)就職活動のため	9	1.9
(2)児童の看護・学校行事等のため	113	70.2
(3)本人の疾病等のため	19	11.8
(4)その他(急引・無断欠席等)	26	16.1
合計	161	100.0

■欠席理由の詳細:

- (1)就職活動のため・・・職業安定所へいくため
- (2)児童の看護・学校行事等のため・・・子供の体調不良・発熱などによる、通院・看護のため
子供の学校・保育園への行事参加のため
- (3)本人の疾病等のため・・・受講者本人の体調不良、風邪のため
- (4)その他(急引・無断欠席等)・・・子供の送迎のため、私用のため

■育児女性へのフォロー体制への関心の把握

育児女性は、託児他、多くの要因により学習に専念し辛い環境に居る方が多く、経済的及び時間的に配慮が必要となることから、実際的なフォロー体制がこうした講座には必要と言えた。

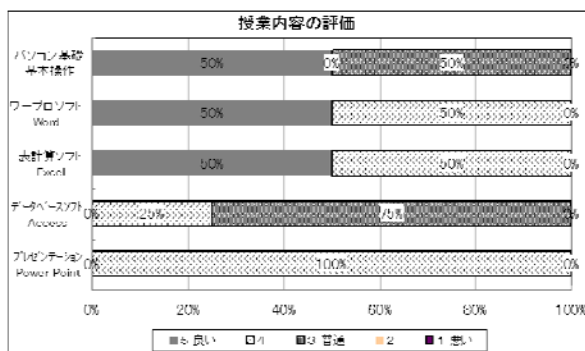
【調査】

- (1)開講時間について
 - ・訓練は、託児等の関係から、10:00～15:00(もしくは14:00頃)が、育児女性には適当と思える。また、同じ理由で、短時間でできることが望ましい。早朝から夕方、終日学習は厳しい。
- (2)カリキュラムのレベルについて
 - ・今回の講座は初級者対象だったが、育児女性の多くは、事務経験等豊富な方も多く、中級や難度の高いコース設定も必要と言える。
- (3)保育料の補助について
 - ・多くの育児女性は、子供を育てながらの有料講座への通学は、経済的にも厳しい状況にある。金銭補助(保育料等)については、特に育児女性はフォローが必要と言える。
 - ・託児所等は、通学場所もしくはその周囲にある方が望ましい。現行法でのフォローを望む。

■カリキュラム・シラバス・学習計画書の事前提示による成果

訓練修了時の受講生の成績については、受講姿勢を含めて、非常に熱心であり、各々レベルアップに熱心であった。内容を予習する等、高いレベルで成績を獲得し、自身の今後に役立つとの所感を抱いて修了する方が多かった。

【講座の評価】



③今後の活用

■訓練修了後の受講生の学習内容活用について

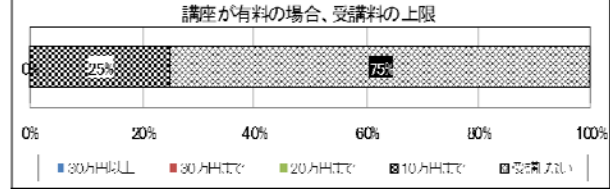
自営が1名。訓練講座で学習したITスキルを活用している。
就職活動中が2名。

再就職に向けての検定受験中が1名。

特に、再就職には、今回訓練の内容より、ITスキルを活用している者が1名。パソコンスキルについては最も不慣れな状態で受講を開始したが、実務で役立てていくことが確認された。

その他、更なるスキルアップを目指す者も1名。国家資格を目指して、現在学習中である。

就職状況	12月	1月	2月
1. 就職(自営)	0名	1名	1名
2. 就職内定	0名	0名	0名
3. 就職未決定	3名	3名	3名
合計	3名	4名	4名



1	30万円以上	0%
2	30万円まで	0%
3	20万円まで	0%
4	10万円まで	25%
5	受講しない	75%

【受講しないが一番高い理由】
基本は、こうした学習にはお金を使いたくない、というのが本音と言える。無料セミナーや無料ガイダンスには関心が高いが、有料の予備校的なものには関心が薄い。特に、主婦層は、こうした金銭的な部分に対する意見はしっかりしている。

■講座が有料の場合、受講料の上限について調査

今後に同様もしくは類似講座を開講するとしたら、参考意見として、受講料を調査した。

1名のみが10万円まで支払ってもよいとの意見であったが、この訓練生は、スキルアップに関心が高い方だった。基本は無料希望であった。

④次年度以降における課題・展開

■育児女性へのフォロー体制についての課題

育児女性の多くは再就職及び学習への意欲が高いのだが、経済的、時間的、その他条件があり、制限が多い。フォロー体制として具体的には、託児や託児費補助が行われること等が挙げられる。その他授業時間の配慮や、交通利便性等、多くの要件が満たされることで、育児女性フォローが確立されると考えられる。こうした要件がひとつでも多く揃うことで、育児女性の社会復帰への一助となる。

■育児女性の社会復帰講座について

フォロー体制が確立された後では、募集等が非常に有望と思われる。また、講座内容についても、育児女性の多くは、社会人経験がある方であり、初級程度の内容ではなく、中級から上級クラスの、より実践的な内容が望ましい。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

■修了証について

訓練最終日に、修了証を発行した。

発行の要件については、特に出席率や成績等で選別した訳ではなく、最終日まで継続して訓練を受講した者に発行。

■成績表について

全受講生の成績を、科目ごとに採点し、一覧表を作成した。

科目別に担当講師からの所感も、受講生それぞれに伝えられ、訓練後の学習に対する改善点等が記載してある。

成績表（育児女性の職場復帰IT訓練講座）

氏名：○○○様

	学科					実技				
	パソコン基礎	ワープロソフト	表計算ソフト	データベースソフト	プレゼンテーション技法	キャリアガイダンス	パソコン基本操作	ワープロ・表計算活用	データベース活用	プレゼンテーション活用
A	96	92	99	99	99	90	86	91	97	90
B	100	97	94	96	99	99	90	83	95	90
C	94	97	97	99	99	67	83	93	97	88
D	87	75	97	94	98	94	86	83	89	85



講座内容				参考(評定値)	各項目よりコメント
学科/実技	科目名	時間数	曜日	(合格/不合格)	
学科	パソコン基礎	3	高専	96	パソコン用語で分からないものは、インターネットで調べよう。習ったことを忘れないうち、Wordで活用しよう。授業で扱った、いい勉強になると思います。
学科	ワープロソフト	12	高専	92	授業で扱った、いい勉強になると思います。
学科	表計算ソフト	18	高専	99	授業で扱った、いい勉強になると思います。
学科	データベースソフト	18	高専	99	データベースの基礎、実務に活用しても役立つと思います。
学科	プレゼンテーション技法	18	高専	99	プレゼンテーションの基礎的な技術をほぼ身に付けたと思います。後は、発表時間とスライドのバランスを上手に上げれば完璧です。
学科	キャリアガイダンス	36	高専/高専/高専	90	パワースタイルがとてよく、どのような職種でも能力を発揮できる素質を感じました。働き方にも対応できると思います。当初は、少し就職意欲的な変化もありましたが、徐々に仕事意欲として受講意欲に変化してきています。他者への気配りや思いやりがあります。もう少し、積極的・具体的に受講意欲を高めることがよいと思います。
実技	パソコン基本操作	3	高専	86	入力文字数、まだまだ伸びますので頑張ってください。
実技	ワープロ・表計算活用	60	高専	91	模擬試験問題を復習しよう。
実技	データベース活用	18	高専	97	実習用データの打ち込みは、質問内容から見てもミスなしの内容はほぼ完璧だと感じました。
実技	プレゼンテーション活用	54	高専	90	聞き手の反応が学習意欲につながると感じました。スライドの構成などがとても視覚的に印象的なものでした。グループでの話し合いも、自分の意見をしっかりと相手に伝えることができていました。

②カリキュラムの内容

■講座のねらい

- ・特に、難易度の高いデータベースとプレゼンテーションに多く時間を割り当て、再就職時に、より高い専門性をアピールできるよう、カリキュラムを工夫した。
- ・即ビジネスに役立つ技能を中心に学習する内容とした。
例)ワープロ・表計算等基本PCスキル
- ・再就職のポイントとして、働き方、マナー、履歴書等作成方法もカリキュラムに取り入れた。

■カリキュラム、シラバス、学習計画書の事前提示

カリキュラム:全240時間にて全10科目
シラバス:全10科目
学習計画書:全240時間分

■シラバス提示の目的

シラバスは、一式講座初日に配布した。

最初に訓練の学習内容全体を理解してもらうことに活用。訓練の予習にも役立てられるため、スムーズな学習の進行と訓練生のレベルアップへのツールとしても有効なため、提示した。

■学習計画書 提示の目的

学習計画書は、週ごとに訓練生に配布した。

週の学習予定及び詳細な進行予定を事前に理解することで、学習をスムーズに進めることに役立てるために、提示した。訓練生も、欠席・遅刻・早退等のケースでも、復習にも役立つとの考えもあった。

【10月】

月	火	水	木	金
		就職ガイダンス ワープロソフト	パソコン基礎 ワープロソフト	プレゼンテーション ワープロソフト
6	7	8	9	10
ワープロソフト	ワープロソフト プレゼンテーション	ワープロソフト	表計算ソフト	プレゼンテーション
13	14	15	16	17
休	表計算ソフト	プレゼンテーション	表計算ソフト	プレゼンテーション
20	21	22	23	24
プレゼンテーション	ワープロ・表計算	プレゼンテーション	ワープロ・表計算	プレゼンテーション
27	28	29	30	31
プレゼンテーション	ワープロ・表計算	プレゼンテーション	ワープロ・表計算	ワープロソフト

【11月】

月	火	水	木	金
1	2	3	4	5
休	ワープロ・表計算	プレゼンテーション	ワープロ・表計算	プレゼンテーション
10	11	12	13	14
プレゼンテーション	ワープロ・表計算	プレゼンテーション	ワープロ・表計算	プレゼンテーション
17	18	19	20	21
プレゼンテーション	ワープロ・表計算	プレゼンテーション	ワープロ・表計算	プレゼンテーション
24	25	26	27	28
休	プレゼンテーション	プレゼンテーション	ワープロ・表計算	就職ガイダンス ワープロソフト

③講座の実施

■成績について

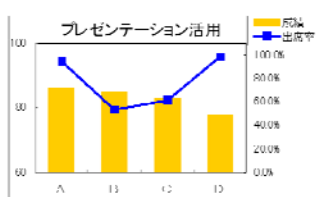
修了時受講生:4名
平均点:89.8点

全体が非常に高い成績で修了した。

■各科目について

各科目については、全般的に高い成績で推移したが、特にITスキルの応用であるデータベースとプレゼンテーションスキルについては、受講生の満足度が低かった。これは、これまで全く未体験のアプリケーションを学習する内容であったため、受講生のストレスが高くなり、かつ理解には時間や能力を求められるためと考えられる。

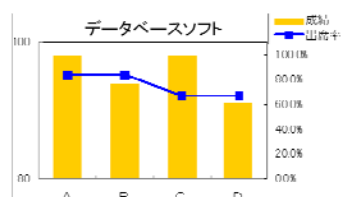
受講生	出席	出席率
A	50	84.4%
B	29	62.7%
C	33	81.1%
D	53	86.1%
平均	41.5	76.3%



プレゼンテーション活用として、資料を作成して、グループ研修を行いました。
話し方やコミュニケーションを合わせて、お互いの内容を検討しました。

4名の受講生は互いに仲良く、話し合っていました。

受講生	出席	出席率
A	98	83.3%
B	94	83.3%
C	98	86.7%
D	91	86.7%
平均	95.25	85.0%



テキスト:「30時間でマスター Access 2003」基本問題(実習問題)で実施。
A氏、B氏、C氏は、基本的な知識は理解が早かった。
D氏が、パソコンに不慣れであったが、数字入力系はスムーズに理解された。

④支援対象者(受講者)の状況

現在、訓練修了後二ヶ月調査にて、1名が自営にて就職。
1名は、難関資格の取得に向けて、受験専念。
2名は、就職活動中。
継続して、相談があれば対応できる体制にて対応したい。

